

令和2年度(2020年度)学校評価報告書

令和3年(2021年)3月15日

北海道札幌稲雲高等学校長
遠藤直樹

1 本年度の重点目標

- 1 自ら学ぶ意欲を育て、目的意識をもって継続的に学習する習慣を身につける。
- 2 自らを律する心と他者と交流する実践力を育て、望ましい人間関係を身につける。
- 3 社会の中での自己実現を考えさせ、進路目標の達成に努力する力を身につける。
- 4 自他の生命・自然を大切にする心を育て、健康・安全の習慣を身につける。
- 5 自ら考え行動する姿勢を育て、効率的に成果をあげる学習態度を身につける。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学校経営	- 学校のグランドデザインに基づいた教育活動を推進し、保護者や地域からの期待に応える取組を行った。人権教育の推進を中心に生徒一人ひとりの状況に寄り添った指導体制の構築に努め、保護者や地域から一定の評価を受けている。 - コロナ禍により教育課程の変更を余儀なくされたが、適切な実施に努めた。学校関係者と連携しICTの活用や教育環境の改善等が進んだ。 - 勤務の効率化や平準化に努め、職員のワークライフバランスの確立等に向けた取組を行った。限られた時間でも質の高い教育活動をさらに推進する必要がある。	- 保護者アンケートについて、「入学させてよかった」が85%と近年にない高割合で、全学年において向上している。コロナの影響によりPTA活動が低調で、施設設備の評価も低いが、教育環境改善への取組は高く評価できる。 - 地域や社会から支持されるような学校教育の改善が図られている。昨年度、文科省の人権教育研究指定校として取り組んだ成果を次年度以降も継続することが大切である。 - 生徒の可能性を広げ、進路希望を実現するだけでなく、社会を生き抜くための基本的な資質・態度を身につける教育をさらに推進していただきたい。
改善方策	生徒が主体的に学ぶ力を育てるため、ICTの活用や探究・体験活動を重視した取組を積極的に進める。	
学習指導	「授業を改善・工夫するための環境を設定できたか」が40%に低下した。「学習習慣を確立できたか」(1年52%)、「家庭学習が自主的な学習へ変化しているか」(2年48%)、いずれも改善しているが、思考力を養い、学力を向上させる授業を行う取組には更なる改善が求められる。	「分かりやすい授業・生徒の意欲を高める授業のための工夫や授業改善が行われている」(61%)「授業・学習指導を通して、生徒の能力を十分に引き出すことができています」(63%)ともに改善が見られ、全学年において向上している。更なる学習における質の向上や教科横断的な取組を期待する。
改善方策	- 主体的に学習に臨み、思考力を高める授業の在り方に関する研修と実践を進める。 - 今年度実施できなかった公開授業における中学校との連携を進め、授業改善の継続的な取組を行う。 「総合的な探究の時間」や体験活動を充実させ、学習における質の向上を図る。	
生活指導	「学年・クラス間の傾斜なく日常的に指導されていたか」(52%)が改善した。ケータイ、インターネット利用に関するモラル指導は近年低下傾向が続いており、改善が必要である。生徒相互のコミュニケーション能力向上や生徒会活動における適切な連携にも課題が残る。	「基本的生活習慣に関する指導が行われ、その成果が現れている」(91%)、「健康指導や交通安全など、安全指導が適切に行われている」(86%)、いずれも高い水準を維持しており、保護者や地域の期待に応える指導が行われている。今年度は特にいじめ防止や対応への評価が向上した。
改善方策	- ネットモラルに関する日常的な指導や情報提供の機会を増やし、改善を進める。 - 今年度実施できなかった学校祭をはじめとする各種行事の実施を適切に推進し、連携を密に行う。	
進路指導	「進路だよりを通して生徒及び保護者へ適切な情報提供をすることができたか」が48%と低下し、コロナ禍における情報提供の難しさが現れた。 「進路の方向性を探究し自己決定する力を育成できたか」(2年)が56%と改善した。大学入試改革に翻弄された3学年ではあったが、概ね生徒の適性に応じた進路指導を行うことができた。	「生徒の職業観育成や将来への具体的目標設定のために役立つ進路指導が行われている」(75%)、「生徒の実態や進路希望にあった進路実績を残すことができています」(70%)、ともに高割合であり、全学年において向上が見られた。画一的な指導から生徒一人ひとりに寄り添った指導への移行が、着実に進んでいる。
改善方策	各学年と連携し、進路情報の積極的な提供に努める。	
保健安全指導	- コロナ禍により健康診断等に大きな変更を余儀なくされたが、概ね円滑に実施できた。各種講演等の縮小が結果的に低評価につながった。 「教育相談活動の充実を図ると共に、担任、学年、分掌との連携を促進することができたか」が72%と安定して高い割合である。	- 視力低下の増加傾向が継続している。今年度口腔衛生状態の低下も見られるため、生徒の健康管理については指導を継続していただきたい。 - 教育相談活動やスクールカウンセラーによるサポートが充実している。教職員のスキル向上への取組をさらにお願いしたい。
改善方策	- 組織的な教育相談活動の充実とスキル向上のための教員研修を継続して実施するとともに、不登校に対する初期対応や予防的対応の方策を具体的に検討する。 - 学校全体で自己有用感や人権意識を高める指導を行い、生徒が健康や安全についての自己管理能力を高められるよう、支援体制のより一層の充実を図る。	